

# ものづくり企業を支援

## 青森県産業技術センター

### 八戸工業研究所実験棟（八戸）

## 北奥羽 産業たてもの探訪

青森県産業技術センター八戸工業研究所は、八戸市を中心とした県南地方のものづくり企業の活動をサポートする産業支援機関だ。八戸北インター工業団地内に研究所の実験棟を構え、製造業者などと連携した研究や開発、工業製品の試験評価などを展開している。

同市沼館地区にあった旧県金属材料試験所が八戸工業研究所の前身。1999年に現在地へ移転



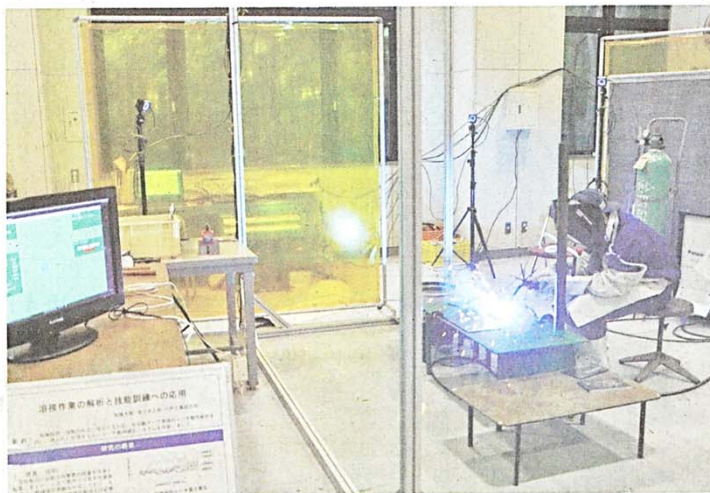
し、組織の改組や改称などを経て現在に至る。同工業団地の八戸インター工業団地プラザ内にも実験室などがある。品質評価や精密測定の研究開発などを手掛ける「技術支援部」、金属加工や電子技術に関する研究開発が専門の「機械システム部」の2部体制で、小野浩之所長を含めた職

## アーク溶接技能、データ化



八戸北インター工業団地内にある青森県産業技術センター八戸工業研究所の実験棟

員13人が企業支援に当たっている。平屋の実験棟は東棟と西棟で構成され、延べ床面積は1788平方メートル。主な設備として、工業製品に振動を与えて信頼性や耐久性を評価する「複合環境試験機」、電子部品のノイズを測定する「電波暗室」などを導入。金属加工用の工作機械も備えている。本年度の目玉研究では、複数のカメラやセンサーで人の動作を分析す



実験棟ではアーク溶接技術のデータ化に関する研究を進めている

る「モーションキャプチャ」を利用し、熟練者のアーク溶接技能をデータ化する取り組みが進行中。従来は「見て覚える」が基本だった職人技を科学的に解析し、若手技術者の効率的なスキルアップにつなげるのが狙いだ。熟練者のデータを基に、手に持った溶接トーチの動きが適正範囲から外れると振動で伝える良否判定機能を構築するなど、訓練システムの開発を進めている。

（松原一茂）

※第4月曜日掲載

企業から依頼を受ける試験・分析や機械使用の件数が堅調に推移し、地場産業の成長に重要な役割を果たしている八戸工業研究所。小野所長は「今後のものづくり産業は、労働力減少への対応が重要な課題。ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、ロボット技術などの活用を推進し、省力化による産業支援につなげたい」と強調する。

令和2年9月28日 デーリー東北 掲載

※この画像は、当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。